

令和6年度 地方公共団体から応募のあった「地域が抱える課題」

番号	団体名	分野名	地域課題の概要	期待する解決策
1	南丹市	住民サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル田園都市国家構想の大きな柱である、地理的な制約、年齢、性別、障害の有無等にかかわらず、誰もがデジタル化の恩恵を享受することで、豊かさを実感できる「誰一人取り残されない」社会の実現を目指す取組として、南丹市においても様々なデジタルデバイド対策を実施している。</li> <li>しかし南丹市には、私たちの生活に必要な不可欠な「通信」を支える携帯電話大手4社「NTTドコモ・ソフトバンク・KDDI・楽天グループ」のキャリアショップがない。高齢者が講習会等でスマホの便利さを知り、興味を持ったとしても手に入れる術が制限されている。</li> <li>今後、行政のデジタル化に伴いスマホの活用はどんどん進んでいくため、高齢者が十分に行政サービスを利用できないデジタルデバイド拡大の懸念がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>携帯キャリアショップの空白地域において、スマホ等を入手する支援の取組。</li> <li>(参考) 宮崎県えびの市で、携帯3社(NTTドコモ・ソフトバンク・KDDI)連携の「臨時ショップ」を開設されていた(2021年8月)。その際の効果等が知りたい。</li> </ul>
2	阪南市	観光	<ul style="list-style-type: none"> <li>阪南市は、大阪府の最南端に位置する市で、関西国際空港から約20分、大阪市からも約40分で訪れることができる、海・山等の自然や歴史・文化資源等魅力的な観光資源が豊富にある自然環境に恵まれたまちである。特に、黒毛和牛の「なにわ黒牛」、大阪府最古酒蔵の「浪花酒造」、かきの養殖などのグルメなど食資源も多くある。</li> <li>しかし、関西国際空港の近接地にありながら、日本の観光客やインバウンドに対して、①認知度不足、②観光インフラ(受入体制)の未整備、③マーケティング不足、販売ツールの充実などが課題となっている。</li> <li>そのため、阪南市では、日本人観光客はもちろんであるが、インバウンドの獲得に力を入れていることから、その誘客に向けデジタル技術などを活用した取組が必要となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光に関して、情報発信、プロモーション、多言語化への対応、マーケティング、販売ツール、2次交通などデジタルを活用した課題解決により、阪南市への誘客の拡大を図り、地域の経済効果、地域振興、活性化をめざす。</li> </ul>
3	三田市	住民サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>三田市はマイナンバーカード利活用を推進しているが、その一環で、令和5年度に、デジタルを活用することで今よりも「行きたくなる」「利用したくなる」利便性の高い公共図書館をつくることを目的に、国のデジタル田園都市国家構想交付金(デジタル実装タイプ)を活用し、スマート図書館サービスを実装・提供開始した。</li> <li>本サービスは、デジタル庁が令和5年度にマイキープラットフォームをシステム改修して提供を開始した新しい仕組みを活用することで、自宅等に居ながら、マイナンバーカードの利用(初回は4桁の暗証番号が必要)によりインターネット上の図書館ホームページで図書館利用者登録を行い、来館する前から本の予約や電子図書館の利用が可能になり、予約本の準備が出来た旨のお知らせを受け取ったあと、図書館に来館し、予約本照会機にマイナンバーカードをかざして予約本の置き場所を確認、棚から該当の予約本を取り出し、自動貸出機にマイナンバーカードをかざして貸出処理することができる(4桁の暗証番号は不要、利用の都度有効期限を自動延長)。館内窓口でマイナンバーカードを利用して新規申し込みすれば、申込書に書かなくて良いなど、利便性が高く先進的なサービスとなっている。</li> <li>本サービスの普及は、市民の利便性向上につながるだけでなく、図書館職員の業務負担軽減にもつながるため、持続可能なまち三田を目指す上で重要な施策である。スマート図書館サービスの利便性を伝えるために図書館ホームページの案内や館内のポスター掲示、チラシ等のアナログな手段を工夫しているが、現状、市民に対して十分に伝わっていると言えない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アナログ面での工夫は実施していることから、デジタル技術(ICTやデータ)を活用した広報展開により、市民に対するスマート図書館サービスの認知度を向上させ、利用者を増やしたい。(例:動画制作とインターネット上での配信など)</li> </ul>

4	有田市	スマートシティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有田市では、健康増進を目的とした健康増進アプリによる健康ポイント事業や、子育て支援を目的としたスマイルチケット（地域振興券）など、様々な事業での支援策やインセンティブとしてポイントやチケットを付与しているところであるが、これらが個別にサービス設計されているため、利用者はサービスごとに利用できる店舗や交換できる景品を調べて選択する必要があるなどの不便が生じている。また、サービス提供者側としても、既存事業に新たにポイント制度を導入する際には、一から地域事業者と調整をはかるコストが生じ、地域事業者としても、サービスが増えるたびに対応しなくてはならないなどの課題が生じている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな事業にも汎用的にインセンティブや支援策として活用できる地域ポイント基盤の導入を検討したい。この際、既に有田市で導入しているデータ連携基盤(都市 OS)を活用し、共通 ID の活用及び既に運用しているアプリケーションとの連携により、既存のポイント事業とも連携を図りたい。</li> </ul>
---	-----	---------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------